

○岡部 隆義<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東大創薬オープンイノベーションセ

ライフサイエンス研究において、研究成果の国民への還元の視点から“創薬”に言及することが多い。しかし、創薬の上流に位置する探索研究から下流の開発研究までを遂行するための基盤設備が大学等の公的研究機関において整備されてこなかったために、公的研究機関による本格的な“創薬”研究は実質上遂行できない状態に置かれていた。このため、日本の大学における“創薬”研究はこの基盤の欠如により諸外国に比べ著しく立ち後れている。

東京大学創薬オープンイノベーションセンターは公的化合物ライブラリー（現在、21万化合物保有）を中心に“創薬”研究の基盤設備を整備し、化合物/薬理活性データを収集、それらのデータベースを構築して、全国のライフサイエンス研究者の“創薬”研究を支援する事を目的としている。具体的には疾患に関連するタンパク質などを研究している全国の研究者との連携・共同研究に基づいて、“創薬”基盤設備を活用して、これらのタンパク質の機能を制御する化合物を見だし、そのタンパク質の生理機能の解析、生命現象の解明を行うと同時に新薬開発に取り組んでいる。

当センターの化合物ライブラリーについてはホームページ (<http://www.ocdd.u-tokyo.ac.jp/>) を参照されたい。